

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 改憲発議許さない！2022 憲法大集会／女性ニュース
- 3面 読者のページ／短歌
- 4～5面 公立病院つぶしストップを／ジェンダーリレー講座／ホットライン
- 6面 高齢者の電動アシスト自転車
- 7面 新婦人のページ／給食でつくる未来



東京・江戸川区 倉川明美

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです



沖縄返還要求8・15海上集会 (1964年)

テレビでウクライナの子どもが「死にたくない」と涙を流す映像を見て、沖縄戦のことを思い出します。そのとき私は5歳でした。米軍から無差別に大量の砲弾が撃ち込まれた「鉄の暴風」、家族で逃げる最中に祖母が銃で撃たれ、砲弾が降るなか、サトウキビ畑に祖母をおいて逃げざるを

基地のない平和で豊かな沖縄に

沖縄戦の体験が重なって

今年で憲法施行75年(5月3日)、沖縄の本土復帰50年(15日)。沖縄で終戦、米国による占領、本土復帰を経験してきた沖縄県本部元事務局長の比嘉愛子さん(82)に話を聞きました。

得ませんでした。

1952年、サンフランシスコ条約によって沖縄は日本から切り離され、米国の占領が続ぎ、米軍による事件・事故が身近でも起こりました。1955年、私が住んで

いた石川市(現うるま市)で、近所の由美子ちゃん(6)が米兵に暴行

を受けて殺害され、嘉手納基地の近くで発見されました。その4年後には

宮森小学校に米軍機が墜落し、住民と子どもたち17人が亡くなりました。



新婦人沖縄県本部
元事務局長

ひが比嘉愛子さん

私は火の手が上がったのを見て、自分の家かと思っただけで、親友の家でいた。親友のお姉さんは即死で、私は家に入って手や腕を集めて……。ひどい現実にも涙も出ませんでした。

どんな事件でも裁判権は米軍側にあって、犯人は無罪になる。県民の人權も憲法もなく、戦争がまだ続いているようでした。墜落事件がきっかけで、人間らしい生活を取り戻すにはみんな力で合わせていくしかない。平和運動に参加するようになりました。

いつでも親子ばと旗が

新婦人沖縄県本部の結成は1963年6月。その「よびかけ」には「新婦人の結成は祖国復帰統一戦線にも大きな役割をはたし、最も民主的な婦人の組織になることですよ」とあり、復帰闘争ではいつでも新婦人の親子ばと旗がひるがえっていました。当時、私は青年運動をしていて、68年

1964年の沖縄返還要求8・15海上集会では、沖縄と与論島(鹿児島)の海上で本土代表とたたかいの連帯を固めました。瀬長フミさん(初代新婦人県本部会長)、大宜味村の「復帰おばあ」神山カメさん、名護市の幸喜敦子さんの3人が乗船しました。

新婦人に入会し、70年に事務局長になりました。

2面へ

今こそ憲法を



「改憲発議許さない！守ろう 平和・いのち」という2022年憲法大集会に1万5000人が参加。プラカードを掲げてアピール(東京・有明防災公園) (2面詳報)

